

# 川ヲ守ル人々



きれいな川は、慌ただしい日常や夏の暑さに疲れた私たちを癒やしてくれます。しかし、心無い行為で川を汚す人がいる現状では、何もしなくても川の環境が保たれるわけではありません。今月は、身近な川の環境を守るため、独自に取り組んでいる人々を紹介します。

川ヲ守ル人々

## 星置川を育てる会

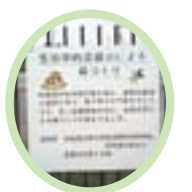
みんなが楽しむ  
場所だから

区内有数の清流として知られる星置川は、豊平川、琴似、発寒川とともに本市の水道の水源にもなっています。サケも遡上するこの川の自然を守り育てようと、平成七年から活動しているのが『星置川を育てる会』です。

星置川の自然に触れ、その魅力に引かれていた同会のメンバーが、星置川河川整備計画に関心を持ったことが活動を始めるきっかけでした。「洪水対策や、河川管理上の都合だけで、この川のあり方を考えてはならない」と考え、情報を集めて関係機関に働きかけました。その結果、行政・専門家・地域住民の話し合いによって、自然を生かしなが



▲木製の階段に腰掛けて川の将来を考えます



ら整備が行われるように計画を改善することができました。例えば水辺に降りるための階段の一つは、コンクリート製ではなく、周囲と調和の取れる木製に変更。また、遊歩道に使われる予定だった素材に環境ホルモンが含まれる恐れがあることから、その使用を中止することになりました。

「以前はあまり重視されていなかった地域住民と行政の対話が、ワークショップなどを通じて深められたこと自体が一つの成果」とする同会。川やその周辺の環境のより良いあり方を考え、提案していくために、専門家の意見に耳を傾けたり、同じような問題意識を持つほかの環境団体などと交流したりしています。

### 手作りの森

同会の行っている取り組みには、星置川河畔への植樹もあります。その土地に自生している木の種から苗を育て、十種類ほどを一緒に植える「生態学的混播法」という方法で、森づくりを進めています。



▲星置川で遊ぶ子供たち

植樹には川の水源を保持する効果がありますが、手入れのために葉や消毒液を使うと、川への汚染につながります。その点、この方法では苗を植えてからは手入れを最小限にし、最終的にその環境に適した木が生き残るようにするため、薬品などによる川の汚染の心配はありません。こうして植えられた木々は、星置川を見守る「手づくりの森」として、長い年月をかけて育っていくことでしょう。

「子どもたちは川遊びが大好き。今ある自然を守ることにももちろん、子どもたちのために川を育てていかなければならない」という同会の思いに賛同して、森づくりなどに飛び入り参加する人もいます。現在のメンバーは十人前後ですが、その思いは、地域に住む多くの人の思いでもあるのではないのでしょうか。